

人間社会学部

試験問題冊子

(A日程 1月31日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 14、記述式解答欄の A J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ある老人ホームでの実験

心理学者のエレン・ランガーとジュディス・ローデインは、六五歳から九〇歳までの入居者の自己決定権の認識を操作する実験を行った。施設の世話係が、二つの階の入居者を別々に集めた。ある階の集まりでは、まず入居者一人ひとりに鉢植えを配り、鉢植えの世話は看護師がしてくれると伝えた。次に、映画を木曜と金曜に上映するので、どちらかの日に映画が見られるよう予定を組んで連絡すると言った。またほかの階の入居者を訪ねておしゃべりをしたり、読書、ラジオ、テレビなどを楽しむことが許されていると説明した。このときのメッセージの趣旨は、入居者にはある程度の自由は許されているが、かれらの健康は有能な職員が責任を持って管理する、というものだった。これは当時の介護施設としては標準的な方針であり、今なおそうである。世話係はこう言った。「この施設を、みなさんが誇りに思い、幸せを感じられるような家にするのがわたしたちの務めです。みなさんのお世話をするために、努力して参ります」

次に世話係は、別の階の入居者を集めた。 a 今回は、一人ひとりの入居者に好きな鉢植えを選ばせ、鉢植えの世話は自分でするようにと伝えた。それから映画上映会を毎週木曜と金曜に行くことを告げ、どちらの日に見てもいいと言った。またお互いの部屋を訪ね合っと思いいいおしゃべりしたり、読書、ラジオ、テレビを楽しむなどと、好きなように時間を過ごして下さいと言った。このように世話係は全体として、この新しい家を楽しめる場所に行けるかどうかは、入居者次第だということを強調した。「みなさんの人生ですよ。どんな人生にするかは、みなさん次第です」

このようにメッセージは違ったが、施設の職員は二つの階の入居者をまったく同じように扱い、同じだけの世話をした。それに、二番目の集団の入居者だけに与えられた選択は、一見ささいなものだった。どの入居者も鉢植えを一つずつ与えられ、木曜であれば金曜であれ、週に一度同じ映画を見たからだ。それなのに三週間後の調査では、選択の自由度が大きい入居者は、そうでない入居者に比べて、満足度が高く、生き生きとしていて、ほかの入居者との交流も盛んだった。三週間というこの短期間にも、「選択権なし」の集団では、入居者の七〇パーセント以上に身体的な健康状態の悪化が見られた。これに対して「選択権あり」の集団では、九〇パーセント以上の入居者の健康状態が改善した。六ヶ月後の調査では、大きな自由度を与えられた、いや実は、自由度が大きいという認識を与えられた入居者の方が、死亡率が低かったことが判明した。

このように介護施設の入居者は、多分に象徴的な選択の自由を手にする^イことで、さまざまな恩恵を受けた。かれらは自分を取り巻く世界を、多少なりとも自分でコントロールしたいという、生まれながらの b を行使できた。その結果、動物園の檻に入れられた動物や低位層の公務員が経験することの多い、ストレスや不安を感じずにいられ

たのだ。この研究が教えてくれるのは、たとえばささいな選択であっても、頻繁¹に行うことで、「自分で環境をコントロールしている」という意識を、意外なほど高めることができるということだ。これは、ささいなストレスが徐々にチクセキ²していくと、たまの大きなできごとが引き起こすストレスより、大きな害をおよぼすようになるということの裏返しだ。さらに意義深い³のは、自分や他人に選択の自由を与えることで、それに伴う恩恵を与えることもできるということだ。行動をちよつと変える、たとえば自分の力を際立たせるような方法で話したり考えたりするだけで、自分の精神的、肉体的状態を大きく変えられるのだ。

精神力で困難を乗り越えようとする患者の姿勢について、これまでさまざまな研究がなされている。ガンやHIVのような悪性疾患との闘病においても、回復の見込みがないことを断固として受け入れない姿勢が、生存確率を高め、再発の可能性を減らすか、少なくとも死を遅らせることがあるという。たとえばガンの研究・治療を専門とする世界で初めての病院、イギリスの王立マーズデン病院で行われた研究がある。この研究によれば、無力感と絶望感が高い乳ガンの患者は、そうでない患者に比べて、五年以内に再発または死亡する確率がイチジル³しく高かった。この傾向が、まだ有効な治療がなかった頃のHIV患者にも見られたことを、さまざまの研究が実証している。「無力感が強い」と回答したHIV患者は、HIVからエイズを発症する確率が高く、エイズ発症から死亡までの期間も短かったのだ。だが病気との向き合い方が、身体の健康に直接的な影響をおよぼすなどということが、本当にあり得るのだろうか？

医学界では、この問題をめぐって白熱した議論が繰り返されている。だが一つはつきり言えるのは、人は可能な限り選択の自由を求めるということだ。わたしたちは、自分の人生を前向きにとらえれば、状態がきつと良くなると信じたいのだ。それに、たとえば身体が快方⁴に向かわなくても、気分は良くなると信じる理由はたしかにある。

たとえばカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で行われたある研究では、乳ガン患者の三分の二が、自分の病気の進行を自分の力でコントロールできると信じていた。またそう答えた人の三分の一以上が、大いにコントロールできると考えていた。このような意識は、たとえば果物や野菜をもつと摂るといった、行動の変化を引き起こすことも多かったが、純粹に心の作用として表れることの方がずっと多かった。たとえば化学療法を、ガン怪獣のかけらを粉碎⁴する大砲に見立てる、というようなことだ。患者は自分にこうも言い聞かせていた。「これ以上絶対にガンをふやさない」。こうした信念がどれほど理屈に合わなくても、自分の病気を大いにコントロールしているという信念が強い患者ほど、幸福度が高かった。実際、自分に病気に勝つ力があると信じたいという患者の欲求は、病める人も健やかなる人も、老いも若きも、だれもが本能的に必要なとする、人生に対する自己決定権への渴望なのである。わたしたちはどんなに悲惨な状況にあっても、自分の人生を、自分の力で選択でき、コントロールできるものと見なしたいのだ。

（シーナ・アイエンガー 櫻井祐子訳 『選択の科学』より一部改変）

From The Art of Choosing by Sheena Iyengar, copyright © 2011. Reproduced with permission of the author.

問1 傍線部1、4、5の漢字のよみをひらがなで、傍線部2、3のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 A 2 B 3 C 4 D 5 E

問2 傍線部ア「認識を操作する実験」とあるが、操作の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

1

- ① 施設の職員が入居者を二つのグループに分けていると認識させた。
- ② 施設の職員が、ある階の入居者の世話はあまり行わないというように差別をしていると認識させた。
- ③ 入居者一人ひとりに、この施設をほこりに思い幸せだと認識させた。
- ④ 二つの階の入居者のうち一方の入居者だけに、一見ささいではあるが「選択権あり」と認識させた。

問3 空欄 a に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

2

- ① もちろん
- ② だが
- ③ 同様に
- ④ このように

問4 傍線部イ「多分に象徴的な選択の自由を手にする」の意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

3

- ① ささいな事柄の選択の自由しかないが、大きな自由を与えられていると錯覚すること
- ② ささいな事柄の選択しかできなくても、その権利をもっていると満足すること
- ③ ささいな事柄についてでも、選択権を持つことが自由であることの象徴だと思いうこと
- ④ ささいな事柄ばかりでも、自分で自由に選択できることは多いと認識すること

問5 空欄 b に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

4

- ① 欲求
- ② 権力
- ③ 実力
- ④ 希求

問6 傍線部ウ「さらに意義深い」ことの内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 5

① 自分や他人に選択の自由を与えることで、精神的にも身体的にも摩耗させることができる。

② 自分や他人に選択の自由を与えることで、「自ら環境をコントロールしている」という意識を意外なほど高めることができる。

③ 自分や他人に選択の自由を与えることで、精神的、身体的状態をより良いものにするができる。

④ 自分や他人に選択の自由を与えることで、不快な出来事に遭遇したときのストレスを最小限に抑えることができる。

問7 傍線部エ「身体が快方に向かわなくても、気分は良くなると信じる理由」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 6

① 自分の病気を自分の力でコントロールできるという理屈は、医学界ですでに実証されているから

② 自分の病気をコントロールしているという強い信念を持つ患者ほど、幸福度が高いから

③ 医学界では、病気への信念と健康、および心の作用の問題をめぐって白熱した議論が繰り返されているから

④ 自分で病気をコントロールできるという意識が、気持ちを高め、果物や野菜を摂るといった行動をひき起こしたから

問8 本文の内容に最も合致しないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 7

① 介護施設で行われた実験で、「ささいな選択の自由」は入居者の健康状態に明確な差を生んだ。

② 病気との向き合い方が身体の健康に直接的な影響をおよぼすかどうかは不明だが、精神の状態には全く影響はない。

③ 自分には病気に勝つ力があると信じるのは、自分の人生を自分で決めたいという本能的な願望のあらわれである。

④ 滅多にない大きなできごとによるストレスよりも、度重なる小さな日常的なストレスの方が害をもたらす。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

今回は、私たちの身の回りのお金の不思議に関して考えます。大学の授業でいえば「金融論」ということになります。

まずは、ここにある1万円札。これは、ただの紙切れのはずなのに、なぜ私たちはお金と思っているのだろうか？

学生A 私たちが「お金」だと思っているからです。

その通りだね。私たちがお金だと思っているから、お金はお金である。論理的には大変おかしい構造ですが、これが貨幣というものの性質なのです。ただの紙を、みんながお金だと思っている。つまりは「共同幻想」によって、お金はお金の価値を持っているのです。

では、その共同幻想を支えているのは、何なのだろうか。たとえば、私が出持っているこの紙袋は、かつてのカンボジアの紙幣を合わせて作られました。シアヌーク国王がトウチする平穏なカンボジア王国の時代の紙幣です。

ところがカンボジアのポルポト政権は、原始共産主義のようなトウチをして、貨幣を廃止してしまいました。文字通りただの紙切れになってしまったのです。ただの紙切れになったので、使い道に困ったのでしよう、加工して紙袋にしたのです。紙幣の価値がなくなり、素材としての紙として使われるようになったのです。

そして、こちらは、フセイン元大統領のシヨウゾウ画のある紙幣。かつてのイラクの紙幣ですね。フセイン政権が倒れ、新政権になったことで、もはや使われなくなった紙幣です。私が去年、イラクに取材に行ったときに買ってきた土産です。もはや土産物としてしか利用価値がありません。

このように考えると、お金がお金として信頼されているのは、その国の中央銀行と政府を信用しているからなのです。中央銀行への信頼が失われると価値は下がり、政府への信頼が失われると、ただの紙くずになってしまうのです。

日本の1万円札は、私たちがお金だと考えているからお金なのですが、法的な位置づけもあります。「日本銀行法」に次の条文があるからです。

第46条 日本銀行は、銀行券を発行する。

2 前項の規定により日本銀行が発行する銀行券（以下「日本銀行券」という。）は、法貨として無制限に通用する。

「法貨」つまり法律で定められた貨幣であり、支払いの手段として日本のどこでも使えると法律で規定しているのです。

ただし、紙幣は日本銀行の発行ですが、硬貨は政府が発行します。お札には「日本銀行券」と書いてありますが、硬貨には「日本国」とコクイン³されています。政府が発行しているのですね。

「通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律」に、次のように記載されています。

第4条 貨幣の製造及び発行の権能は、政府に属する。

また、次のような文章もあります。

第7条 貨幣は、額面価格の二十倍までを限り、法貨として通用する。

たとえば1円玉を1000個持参して1000円の買い物をしようとしても、相手は拒否できるのですね。「20円までしか受け取れません」と言えるのです。嫌がらせを防げるのです。もちろん受け取ってもいいのですが、拒否できるのです。

紙幣より力が落ちるのが硬貨なのです。

法律でお金と決まっているとはいえ、私たちは、何の疑問もなくお金だと思って使っています。そこには、お金が生まれてきた歴史があるのです。

大昔は物々交換をしていたと習ったはずですが、ところが、物々交換というのは、意外にむずかしいのですね。

たとえば魚を肉と交換したい人がいても、肉を持っていて魚と交換したいと考えている人と出会えなければ、交換は実現しないからです。ばったり出会うという偶然に頼るわけにいきませんから、交換したい人たちは、一堂に会するという方法をとります。これが市の発生です。市がいつ開かれていたかは、地名として現代に残っています。四日市や五日市、八日市場、廿日市というように。

こうした市が開かれても、物々交換はやはり偶然性に左右されます。そこで、とりあえず「誰もが欲しがるもの」と交換する、という形をとるようになります。それが日本では稲や布でした。

稲はかつて「ネ」と発音されていました。「これは、どれくらいのネと交換できるのか」などとやりとりをしているうちに、「このネはどれくらい」となって、値段の「値」という言葉になりました。

また、布は紙幣の「幣」の字として残っています。

中国では、子安貝こやすがいというきれいな貝が交換の仲立ちになりました。その証拠が、現在の漢字にも残っています。お金や財産に関する漢字には、いずれも貝が入っているでしょう。これが証拠です。たとえば、財、貯、貴、買、貧、賄賂等々。賄賂はすごいですね。両方に入っています。

古代ローマでは兵士に塩が給料として支払われていました。塩を持っていれば、何とでも交換できたのですね。塩は「サル(salt)」、給金としての塩を「サラリウム」といいます。ここから英語の「サラリー」という言葉が生まれました。

でも、こうした仲介手段には限界があります。持ち運びが a で腐ることなく、壊れることもない。さらには製造が容易なものが必要とされます。かくして生まれたのが、金、銀、銅を使った硬貨です。これが「お金」の始まりです。

金や銀、銅という素材そのものに価値があったので、通貨として使われました。素材価値がなければ相手に信用されず、お金としても流通し得なかったのです。

日本では、室町時代頃から、西日本は大森銀山(石見銀山)から採掘された銀が、東

日本は岩手や佐渡で取れた金が主に使用されるようになります。

金や銀は優れた貨幣でしたが、大量に使われるようになると、不便な点も出てきます。交易が活発になると、支払金額が増えてくるからです。大量の持ち運びはむずかしいですし、ブツソウでもあります。途中で強盗に取られたら大変です。そこで両替商が登場しました。

金や銀を大量に保有する大金持ちに金や銀を預け、手数料を払って預かり証を発行してもらいます。商品の売買に、この預かり証を使えば、比較的安全に大金を持ち運ぶのと同じ効果が得られます。

預かり証を受け取った側も、それをすぐに b することなく、別の支払いに使うことが可能です。かくして、預かり証自体が、まるで通貨のような働きをするようになります。これが紙幣の誕生です。

両替商は、明治になって銀行として発展します。

明治になると、政府は通貨制度を整備します。それまでの1両は1円となります。

明治4年（1871年）、金本位制が採用され、翌年、国立銀行条例を制定。明治6年（1873年）に最初の国立銀行が設立され、銀行券の発行が始まります。

ただし、「国立銀行」という名称であっても、国営銀行ではありませんでした。米国の「ナショナル・バンク」を国立銀行と訳してしまったのです。正しくは「国の法律（国立銀行条例）によって設立された銀行」という意味でした。

最初に設立されたのは、第一国立銀行、第二国立銀行、第四国立銀行そして第五国立銀行でした。設立順に番号がつけられました。

ただし、第三国立銀行は存在しません。設立をめぐる紛争となり、解散してしまっただからです。ですので、現在三重県にある第三銀行は、第三国立銀行の後継というわけではありません。第三相互銀行から変わったものです。

こうした国立銀行は、政府紙幣と金を元にして、それぞれ独自に銀行券を発行しました。銀行券の図柄はみな同じで、発行銀行名だけが異なる形式でした。銀行券の所有者は、この銀行券を銀行に持ち込めば、額面分の金と交換できました。これが「兌換券」です。ところが、銀行券の所有者は、金と交換することを求めるようになり、次第に銀行券の流通量が減ってしまいます。困った明治政府は、兌換紙幣でなくても紙幣を発行できるように法律を改正。不換紙幣が発行できるようになりました。これにより、その後各地に国立銀行という名の民間銀行が次々に設立されました。

（中略）

明治15年（1882年）、日本銀行が設立され、明治18年（1885年）から日本銀行券の発行が始まりました。

当初は銀本位制でしたが、明治30年（1897年）に金本位制となります。日清戦争で得た多額の賠償金があったからこそ実現できた金本位制でした。日本銀行券は同額の金と交換できたのです。

その後しばらくは兌換券の発行が続きますが、金本位制ですと、紙幣の発行高が、中央銀行が保有している金の量に制約されます。それを避けるため、昭和17年（1942年）、日本銀行券の発行は、保有する金の量に縛られなくなります。これを「管理通貨制度」

といいます。

日本銀行券は不換紙幣となりました。金の裏付けのない、ただの紙になったのです。しかし、人々は、これを「お金」だと信じ続けましたので、いまもお金なのです。

(池上 彰『この社会で戦う君に「知の世界地図」をあげよう』より一部改変)

問1 傍線部1、2、3、5のカタカナを漢字に直し、傍線部4の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 F

2 G

3 H

4 I

5 J

問2 傍線部ア「論理的には大変おかしな構造です」とあるが、筆者がそう考える理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

8

- ① 法律的な根拠がない矛盾のある論理だから
- ② 共同幻想から成り立っている論理だから
- ③ 日本銀行ができる以前に作られた論理だから
- ④ 実体のある1万円札を幻想とみなす論理だから

問3 傍線部イ「物々交換というのは、意外にむずかしい」とあるが、それを解決するために取られた方法として最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

9

- ① 物を交換したい人たちは一堂に会するようにした。
- ② 物を「誰もが欲しがるもの」と交換するようにした。
- ③ 物を素材そのものに価値があるものと交換するようにした。
- ④ 物を両替商に持ち込めば預かり証と交換できるようにした。

問4 空欄 a に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

10

- ① 容易
- ② 困難
- ③ 巧妙
- ④ 厄介

問5 傍線部ウ「これがお金の始まりです」とあるが、本文の中で「お金の始まり」とされるものとして最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

11

- ① 古代ローマでは塩が兵士に給料として支払われた。
- ② 壊れることのない硬貨が交換手段として使われた。
- ③ 中国では子安貝というきれいな貝が交換の仲立ちになった。
- ④ 素材価値にもとづく通貨制度が作られた。

問6 空欄 [b] に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 [12]

- ① 返金
- ② 消費
- ③ 換金
- ④ 投資

問7 傍線部エ「国立銀行」の説明として最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 [13]

- ① 国営銀行ではない民間銀行である。
- ② 米国の「ナショナル・バンク」を訳したものである。
- ③ 日本銀行券の発行を行った。
- ④ 国の法律「国立銀行条例」によって設立された。

問8 傍線部オ「管理通貨制度」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。 [14]

- ① 管理通貨制度とは、金の裏付けのないただの紙をお金にした制度である。
- ② 管理通貨制度とは、日本銀行券を同額の金と交換できる制度である。
- ③ 管理通貨制度とは、銀本位制を金本位制にした制度である。
- ④ 管理通貨制度とは、兌換紙幣を発行するようにした制度である。

(以上)